



ゆのはな

第25号
2023年10月
BRCだより

すべての人が地域でしあわせに生活できる社会の実現



リハビリテーション部のご紹介



B棟リハ課長 黒瀬 一郎
A棟リハ課長 高田 浩美

私たちリハビリテーション部は、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士の3つの専門職、総勢88名からなり、それぞれの専門性を活かして患者様のニーズに応えられるようリハビリテーションを提供しています。

理学療法では、起き上がる、立つ、歩くなど日常生活に必要な動作の回復を目指します。作業療法は食事、トイレ、入浴などの日常生活動作や、家事、仕事、趣味などの社会

参加活動に焦点をあて訓練を行います。言語聴覚療法ではコミュニケーションや食べることを中心に関わります。

3職種ともに研修会参加や学会発表などを積極的に行い、科学的根拠に基づくリハビリテーションを推進しています。

このように各職種が専門分野の役割を担いつつ、多職種で連携して社会復帰に向けた支援を行っています。例えば、障害に対する関わり方や介護方法のポイントの説明、福祉用具や住環境整備に関する提案等も行っていきます。

また、患者さま一人ひとりの個性も大切にして、目標設定や訓練組み立てを行っています。どのような趣味をお持ちなのか、家庭内の役割は何か、どのような季節が好きなのか、好みの芸能人やテレビ番組は何か、今まで何を大切にしていたの

うな人生を歩んでこられたのか、このようなことを一部でも共有させていただき、退院後もその人らしく生活していただけるよう取り組んでいます。

職員も個性的な面々が揃っております。仕事が趣味のような人もいますし、休みの度に釣りにキャンプに出向く人もいます。家庭菜園に精を出す人や子育てを楽しむ人、地域行事で活躍する人もいます。

年齢や経験、性格もそれぞれですが、みな専門職としての技能向上を目指し、多職種との連携を大切にしています。私たちは患者さまの笑顔を見るのが大好きです。

患者さまがより良い社会復帰ができるよう職員一同精進してまいりますので、今後ともよろしくお願いたします。



新規装置導入 マルチスライスCT装置

最新AI搭載 新世代80列マルチスライスCT

令和5年6月当センターでは、最新のAIを搭載した新世代80列マルチスライスCT「Aquilion Serve」を導入しました。キヤノンメディカルシステムズ株式会社が開発した最先端X線CT撮影装置で、「AI画像再構成機能」と「AIカメラ」が搭載されており、人工知能(AI)技術を用いた画像の再構成や撮影条件の最適化が図られ被ばく線量の低減も大いに期待できます。



広がって圧迫感が
軽減されました



最新AIが搭載されて何がかわるか？

<最新AI(人工知能・深層学習)技術搭載>

CT装置は、X線を利用して体内の断面像を撮影する装置で、一般のX線撮影よりも詳細な情報を立体的に得ることができます。しかし、CT装置には、その特性から画像のノイズや被ばく量、検査時間などの課題が、AI技術の搭載でクリアできます。

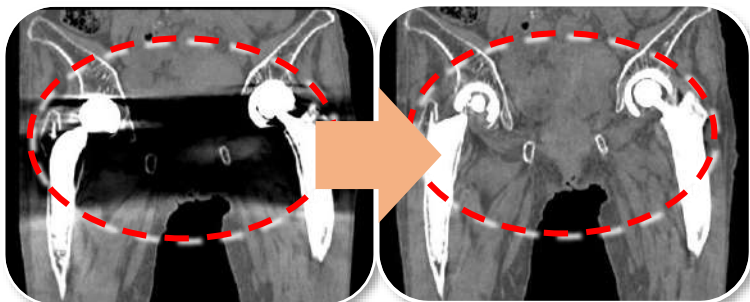
<AI画像再構成機能>

これまでに培っていた数多くのディープラーニングなどの手法を用いて、ノイズを除去し、画像の鮮明さやコントラストを高めることができ、画像の品質や精度が向上できます。

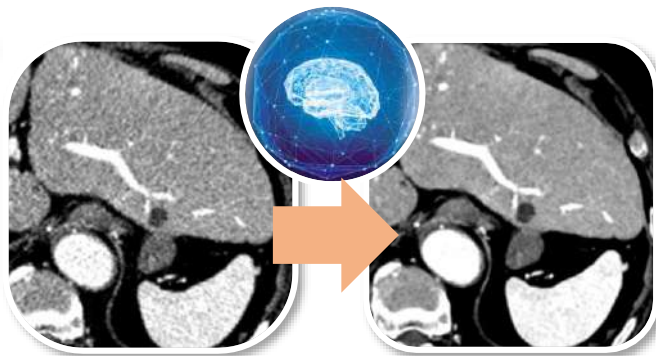
<AIカメラ>

患者さんの姿勢や呼吸に合わせて自動的に撮影位置や撮影時間を調整することができ、検査時間の短縮など患者さんの負担を軽減し、より快適な検査環境が実現できます。

最新CT装置の得意ワザ！



これまで体内の金属部分をCTで撮影した場合に発生していた金属周囲の視認不良領域(左画像)が、しっかり映し出されるようになった(右画像)ことで、更に診断能の高い画像を提供できるようになりました。



搭載された最新AI画像再構成技術により大幅な被ばく低減と画質の向上を両立します。

今後とも、皆さまの健康と安全に努めて参ります。どうぞよろしくお願いいたします。

家族教室 「高次脳機能障害について」を開催しました



令和5年9月9日(土)10時から、第1回家族教室を、当センター研修室で開催しました。今回は5組9名のご家族にご参加いただきました。

ご参加いただいたご家族からは、多くの質問や相談をいただきました。

一人で悩まなくて良いこと、退院後も当センター外来を利用した、継続的な相談や支援の場所があることなどを理解されたことで、ご家族が抱えている不安を少しだけ和らげる機会となったのではないのでしょうか。

高次脳機能障害について講師の甲斐祥吾言語聴覚士が、ご家族の思い・ご家族の立場に寄り添ってお話しさせていただきました。

家族教室の内容

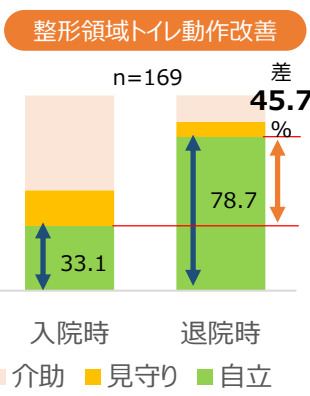
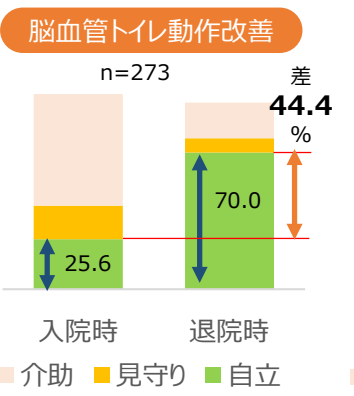
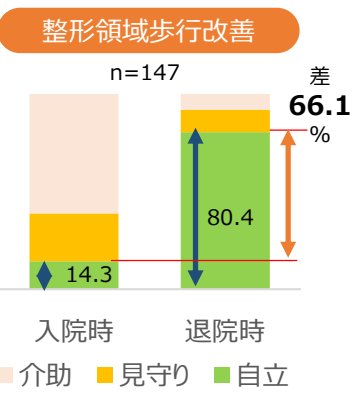
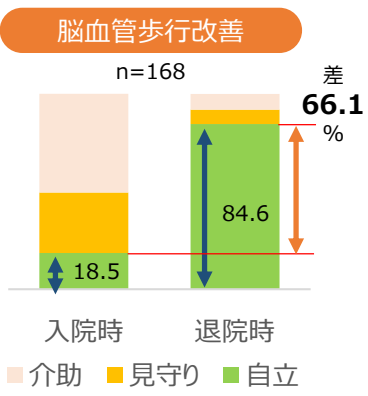
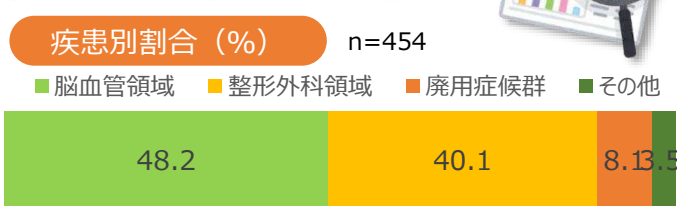
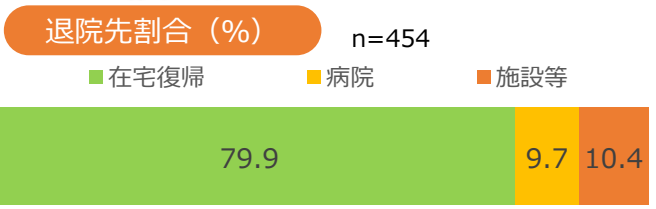
- ご家族の思いの確認
- 「脳」のお話
- 「高次脳機能障害」のお話
- これからの支援のお話



ご参加ありがとうございました。また、たくさんのご質問やご相談をありがとうございました。
講師：甲斐祥吾（言語聴覚士）



回復期リハビリテーション病棟2022年度実績



2022年度の回復期リハビリテーション病棟の実績をまとめました。在宅復帰された方は79.9%と、全国平均(77.9%)を上回りました。疾患別分類では、5割が脳血管領域で、

4割が整形外科領域で、昨年度よりも整形外科領域に増加が見られました。入院時と比較した歩行改善度は、脳血管領域の方は66.1%、整形外科領域の方も66.1%の方が単独での歩

行が可能となりました。トイレ動作の改善度は、脳血管領域は44.4%の方が、整形外科領域では45.7%の方が単独動作可能となりました。

リハビリテーション専門職による 出前講座はじめました! 無料!



当センターのリハビリテーション部では、令和3年度より退院先の入所施設との連携強化に取り組んでいます。取り組みの一環として、入所施設で介護する方の負担軽減や介護される方の生活のしやすさにつながるように、「介護とリハビリをつなぐ会～別府の介護を一緒に考える～」を立ち上げました。さらに本年度より直接施設へ出向く「出前講座」をはじめました。

写真は 8月に別府市内の施設で行われた風景です。

『介護者のからだを守る腰痛予防』として施設の職員さん向けに、当センターの理学療法士による講座と腰痛予防体操の体験指導をおこないました。



介護者のからだを
守る腰痛体操

廃用を防ぐ
介護予防体操

楽しく「食べる」を
続けるための工夫

楽な寝返り
起き上がり
移乗介助方法

「来年度も続けて欲しい」、「他のテーマでもまたお願いしたい」等、ありがたいお言葉を頂いています。また、介護保険サービス事業所から多くのお問い合わせを頂いており、当センターの担当スタッフも大いにやりがいを感じています。

今後も退院先との連携強化を行うとともに、別府市の方々にとって、より良い介護につながるよう尽力していきたいと考えております。



テーマは上記4つから自由に選択できます。



社会福祉法人 農協共済 別府リハビリテーションセンター

日本医療機能評価機構認定病院 / 日本リハビリテーション医学会認定研修施設

製作：診療事業部門
医療サービス向上委員会

〒874-8611 大分県別府市鶴見1026-10
TEL:0977-67-1711 FAX:0977-67-1712
URL:https://brc.or.jp

